

## 事例研究報告

# 特別支援学校中学部生徒の 他害行為等の不適切な行動を 減らすための支援

# 生徒の実態

- ・知的障がいがある中学部の生徒。
- ・「〇〇ほしい」や「〇〇いらない」、「〇〇行きたい」など言葉によるコミュニケーションをある程度とることができる。
- ・PECSを用いて自分の思いや援助要求を詳しく相手に伝える学習に取り組んでおり、その結果、自分でできないときには「てっだってください」と援助要求を伝えてくることのできる場面が増えてきている。
- ・「ダメよ」など否定的な言葉かけをされたときや、自分の思い通りの結果にならないときなどに、自傷行為やその相手に対して「ひっかく」「つねる」「たたく」「かみつく」などの他害行為を行うことがある。カームダウンエリアへの移動には、他害行為を行った後、身体的ガイダンスにより移動する場面が多い。

## 保護者の願い

「自分の思い通りにならないときに、  
癩癩をおこして他害行為を行うこ  
とをなくしてほしい」

## 教員の願い

「他害行為を減らしたい」

## アドバイザーからの助言(1回目)

- ・カームダウンエリアの位置づけを考え直す必要がある。カームダウンエリアは、「不安定な状態になってから行く場所」と教員は考えがちであるが、そうではなく、不安定な状態になる兆候がみられる前に「教員の指示に従って」行くことができるようになる必要がある。
- ・不安定な状態で、他害行為をしそうな状況のときには、本人の近くに居たり、身体的ガイダンスを行ったりするのは、他害行為を誘発することにつながるのでよくない。
- ・「教員の指示に従うことができるようにする」ための取組として、「イス座るゲーム」を行っていくことが有効である。この実践により、教員の指示に従って行動するトレーニングを積み、その結果、指示に従ってカームダウンエリアに移動できるようになり、他害行為を減らすことができると考えられる。

# 助言を受けての見直し

アドバイザーの先生からの助言を受け、指導目標の見直しを行った。

## <before>

「不安定な状態になったときに、自主的にカームダウンエリアを利用することができるようになる」

## <after>

「教員の言語指示に従って、カームダウンエリアに移動することができる」

# 指導1 「連続強化」

## 【指導手続き】

- ・教室に「赤」「青」「黒」の3つのイスを準備する。
- ・「赤のイスに座ります」「青のイスに座ります」「黒のイスに座ります」の言語指示を出す。
- ・指示に従ってイスに座ることができたら、すぐに好子である「すばらしい」などの言語称賛と併せて「ベビーチョコ」を1粒手渡す。

## 【達成基準】

「10回出された指示に従って行動することが100%できる」ことが3回連続できれば達成。

## 【結果】

3セッション行い、いずれも指示に従うことが100%できたため達成。

## 指導2 「連続強化＋カームダウンエリアの追加」

### 【指導手続き】

- ・教室に「赤」「青」「黒」の3つのイスを準備する。
- ・「赤のイスに座ります」「青のイスに座ります」「黒のイスに座ります」「お部屋(カームダウンエリア)にいきます」の言語指示をランダムに出す。
- ・指示に従ってイスに座る, またお部屋(カームダウンエリア)に入ることができたら, すぐに好子である「すばらしい」などの言語称賛と併せて「ベビーチョコ」を1粒手渡す。

### 【達成基準】

「10回出された指示に従って行動することが100%できる」ことが3回連続できれば達成。

### 【結果】

3セッション行い, いずれも指示に従うことが100%できたため達成。

## 指導3 「部分強化に移行＋場所の般化」

### 【指導手続き】

- ・教室に2つ，廊下に1つのイスを準備する。「赤」「青」「黒」の3つのイスの配置はランダムにする。
- ・「赤のイスに座ります」「青のイスに座ります」「黒のイスに座ります」「お部屋にいきます」の言語指示をランダムに出す。
- ・指示に従って教室・廊下のイスに座る，またお部屋(カームダウンエリア)に入ることができたら，次の言語指示を出すようにする。言語称賛は毎回行い，「ベビーチョコ」は2～4回指示に従えた時点で1粒手渡す(強化のタイミングはランダムに行い，1セッションで計3粒)に変更する。

### 【達成基準】

「10回出された指示に従って行動することが100%できる」ことが3回連続できれば達成。

### 【結果】

3セッション行い，いずれも指示に従うことが100%できたため達成。

## 指導4 「強化の頻度を下げる」

### 【指導手続き】

- ・教室に2つ，廊下に1つのイスを準備する。「赤」「青」「黒」の3つのイスの配置はランダムにする。
- ・「赤のイスに座ります」「青のイスに座ります」「黒のイスに座ります」「お部屋にいきます」の言語指示をランダムに出す。
- ・指示に従って教室・廊下のイスに座る，またお部屋(カームダウンエリア)に入ることができたら，次の言語指示を出すようにする。言語称賛は毎回行い，「ベビーチョコ」は最後の10回目の指示に従えた時点で1粒手渡す(1セッションで1粒)に変更する。

### 【達成基準】

「10回出された指示に従って行動することが100%できる」ことが3回連続できれば達成。

### 【結果】

3セッション行い，いずれも指示に従うことが100%できたため達成。

## 指導5 「日常場面での般化」

### 【指導手続き】

- ・「イス座るゲーム」以外の場面で、「お部屋に行きます」の言語指示を出す。
- ・「ベビーチョコ」の好子はなし。
- ・タイマーを5秒から60秒程度の間でランダムな長さでセットし、タイマーが鳴ったら出てくるように言語指示を出す。

### 【達成基準】

指示に従ってカームダウンエリアに移動することが3回連続できれば達成。

### 【結果】

「対面課題の途中」「対面での作業終了後」「休憩時間の終了後」の3つの異なる場面において、いずれも指示に従うことができたため達成。

## アドバイザーからの助言(2回目)

- ・カームダウンエリアが嫌なものになったり、入ることを拒否したりするようになっていないためにベビーチョコの好子は連続強化で用いた方がよい
- ・部分強化でチョコを好子として使用する時には、お菓子がある時とない時で弁別する可能性があるがあるので、お菓子は見えないところにかくしておく。

## 指導6 「日常場面での般化2」

### 【指導手続き】

- ・「イス座るゲーム」以外の場面で、「お部屋に行きます」の言語指示を出す。
- ・タイマーを5秒から60秒程度の間でランダムな長さでセットし、タイマーが鳴ったら出てくるように言語指示を出す。
- ・タイマーが鳴り、カームダウンエリアから出てくることができた時点で、「ベビーチョコ」を1粒手渡す。

### 【達成基準】

指示に従ってカームダウンエリアに移動することが3回連続できれば達成。

### 【結果】

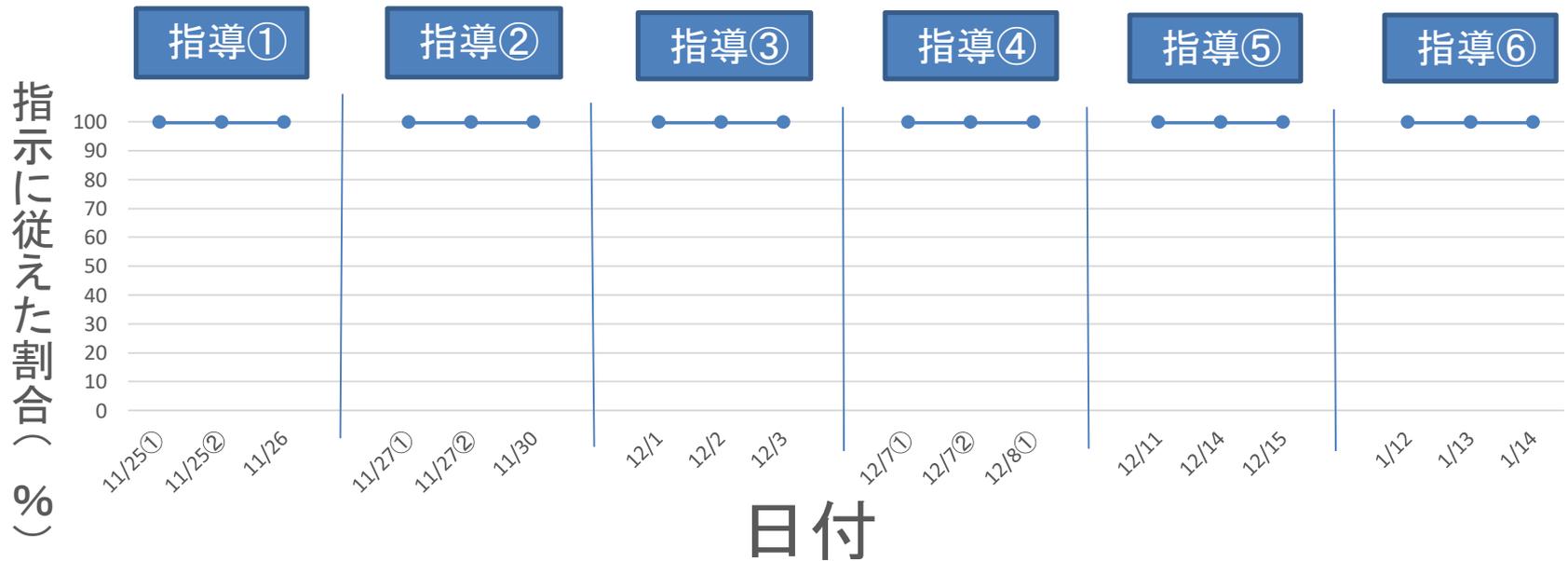
「対面課題終了後」「スケジュールを確認後」「休憩時間の終了後」の3つの異なる場面において、いずれも指示に従うことができたため達成。

# 指導の成果

## 【イス座るゲームの結果】

「イス座るゲーム」の実践を進めることで、教員の指示に従って行動する経験を重ねることができた。設定された場面以外の、日常生活の場面においても、指示に従い、カームダウンエリアに移動することができるようになった。

### イス座るゲームの記録

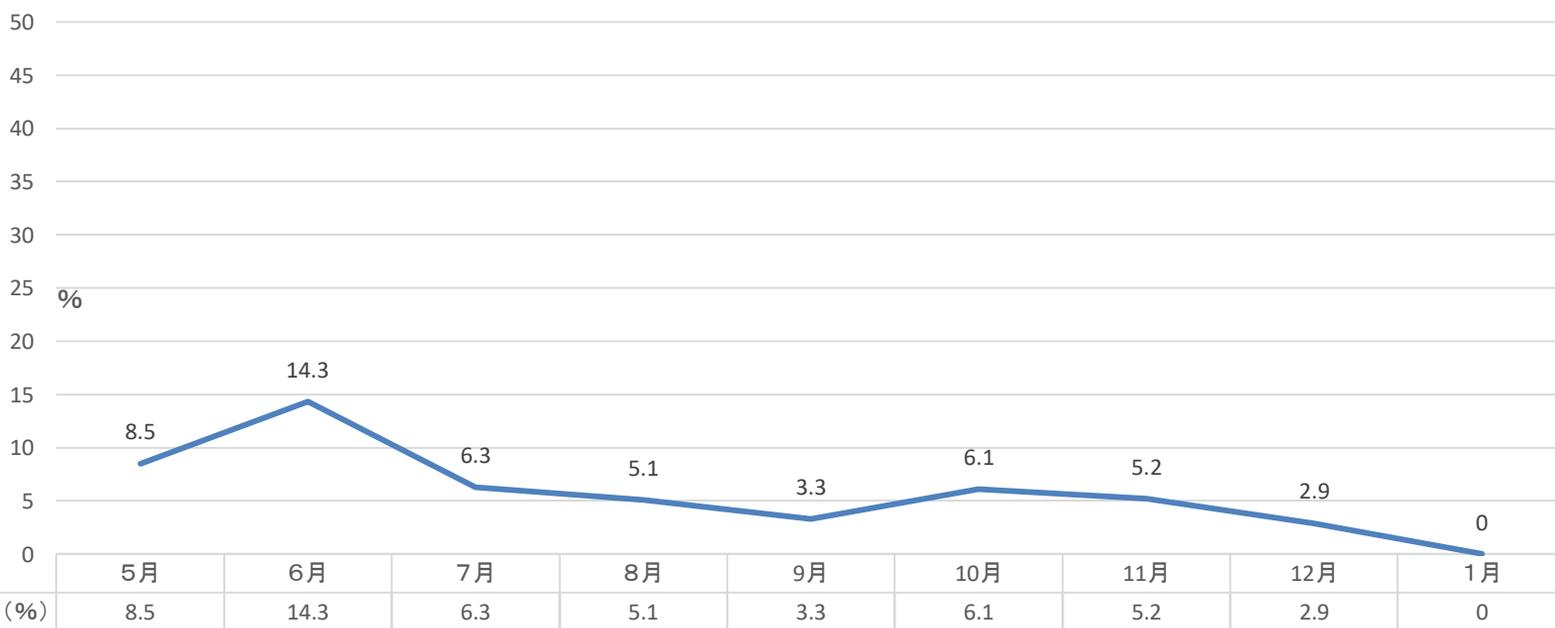


# 【イス座るゲームによる効果】

「イス座るゲーム」の実践を開始した11月25日以降、12月・1月は明らかに他害行為の回数が減少した。

## 月別の他害行為の頻度の変化

(不適切な行動回数/月の総授業コマ数[1日6コマで換算])



## 【結果と考察】

・「イス座るゲーム」の実践を通して、日常生活の場面において、教員の指示に従ってカームダウンエリアに移動することができるようになった。

・教員の指示に従って行動する経験を積み重ねることで、教員の指示に対しての「許容範囲が広がる」様子がみられる。以前であれば、指示を受け入れられずに他害行為が出ることが予想されるような場面(例えば、掃除が終わりほうきを片付けた後に、もう1回ほうきを取ってきて掃除をするように指示を出したり、本人からの「〇〇したい」「〇〇ほしい」の要求を「今は違います」と教員が受け入れない対応をとるなど)においても、他害行為を行うことなく、指示に従って行動することができるようになってきた。

# ここが成功のポイント

「イスに座る」という簡単な指示を用いることで、本人のストレスもほとんどなく「教員の指示に従って行動する」経験を重ねることができた。

さらに好子を用いることで「教員の指示に従って行動すれば自分にとってよい結果になる」という学習ができ、その結果、教員の指示を受け入れることができる場面が多くなった。